

四輪車と二輪車の相互意識について

岐阜大学 正 加 藤 晃
 名城大学 正 高 橋 政 稔
 名城大学 学 ○宮 沢 紀 夫

1. はじめに

昨今、二輪車保有台数の増加にともなって事故も同様に増加の一途をたどっている。そこで本調査は、二輪車の事故対策を行う上で、道路構造再検討の必要性が生じているのではないかという事を前提にして追求する事を目的とし、ドライバーから見たライダー、又その逆にライダーから見たドライバー、そして走行中の感覚などについて詳細に調査した。本稿は、その結果の一部を報告する。

2. 調査について

調査はアンケートを用い、二輪車運転者（以下ライダー）500人、四輪車運転者（以下ドライバー）500人の合計1000人に直接回答を得る方法とした。また調査対象地域は、名古屋市中心に愛知県下で行い期間は8月から11月までの四ヶ月に渡って行った。集計については、ライダーとドライバーとの比較、また各者の回答についてクロス集計を行なっているが、今回は主として前者の結果を中心にとりあげた。

3. 調査結果

回答者の性別、年齢、職業、運転歴、使用車両、使用目的については、右に示す結果になった（表-1）。まずはじめに制限速度を守っているか否かについては、ライダー75.6%、ドライバー61.6%の者が守らず、どの程度オーバーしているか見ると、ライダーは20km/h、ドライバーでは10km/hが最も多い（図-1）。その理由は、各者共に早く目的地に着きたいが約23%、制限速度が遅いが約30%と過半数を占め同じ傾向を示すが、性能上仕方ないがドライバー4%に対しライダー14%と多くなる（図-2）。次に違反経験の有る者はライダー45%、ドライバー67%で、違反の種類は各者共男性の場合最も多いのが速度超過で約44%、女性はライダーでは一時停止無視が約40%、ドライバーは速度超過、一時停止無視が合わせて約60%と多くを占める。では違反経験の無いものに実際違反していないのかと質問したところ、男性の約74%は違反してるが運良く検挙されないと答え、女性は逆に実際違反していない者が過半数となる（図-3）。事故経験者については、ライダー約22%（対四輪車）、ドライバーは約12%（対二輪車）。原因で多いのはライダーの場合、巻き込まれ約31%、速度超過約23%、ドライバーではスリップ、速度超過が合わせ

表-1. アンケート集計結果

項目	性別	二輪車 構成比	四輪車 構成比
性 別	男性	87.1%	56.0%
	女性	32.9%	44.0%
	10代	18.2%	12.6%
	20代	58.4%	47.0%
	30代	8.8%	13.0%
	40代	12.1%	18.0%
年 齢	50代	2.5%	7.6%
	60代以上	0.0%	1.8%
職 業	高校生	3.5%	0.4%
	大学生	3.7%	25.0%
	会社員	45.4%	61.2%
	主婦	12.1%	12.0%
	無職	1.9%	1.4%
運転歴	1年未満	15.0%	10.4%
	3年未満	34.2%	21.2%
	6年未満	24.2%	18.2%
	6年以上	26.6%	50.2%
使用二輪車	50cc	58.9%	
	125-400cc	5.8%	
	400cc以上	31.5%	
使用四輪車	軽自動車		16.8%
	普通自動車		80.6%
	バス		0.0%
使用目的	通勤	25.6%	27.1%
	通学	22.4%	9.3%
	買い物	6.0%	15.1%
	娯楽	9.9%	21.3%
	その他	33.1%	23.4%

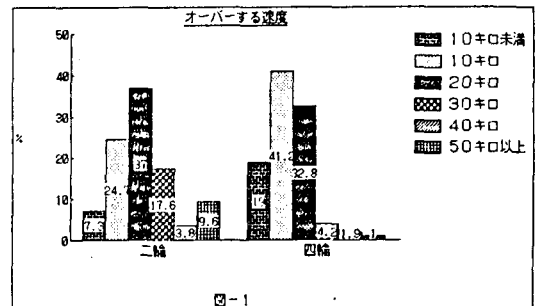


図-1

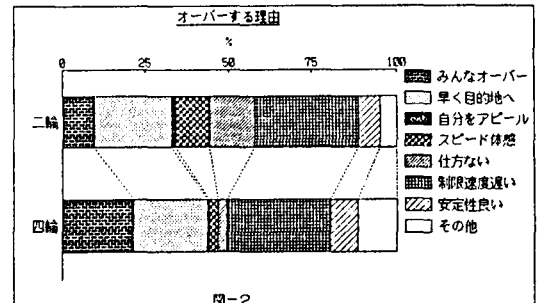
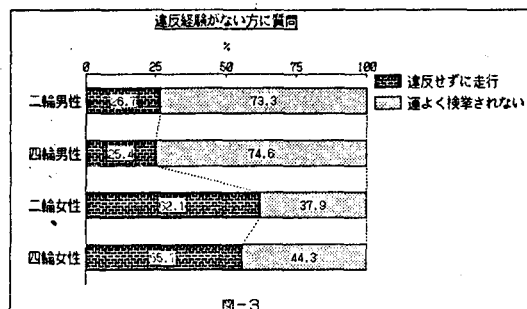
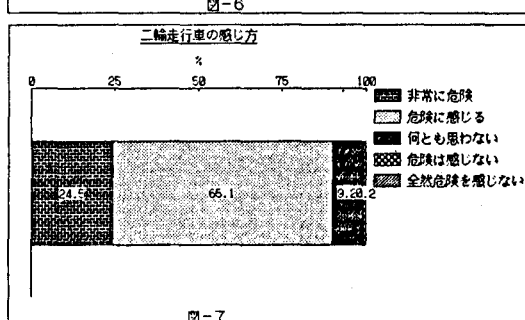
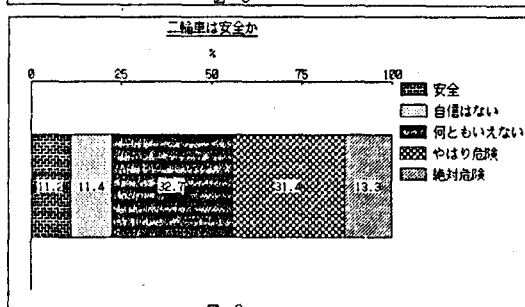
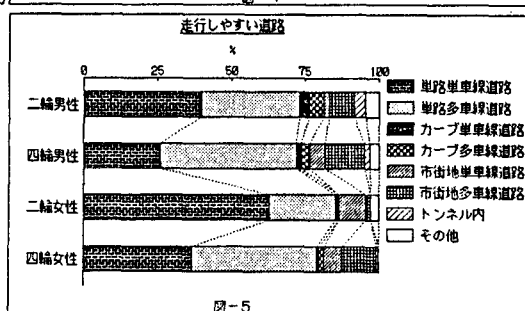


図-2



て約30%であるが項目回答以外で二輪車の方から自車に衝突してきたという回答が約30%にも達した。現場との関係では、ライダーの巻き込まれは市街地多車線で最も多く約34%、速度超過が単路単車線約26%、カーブ多車線約24%（図-4）、ドライバーの場合、スリップはカーブ単車線約33%で、速度超過では単路単車線約30%、前述の項目回答以外はカーブ単車線は約21%である。又、今後事故を起こさない自信については、事故経験にかかわらずはっきり言えない者が過半数を占めるが、ライダーの場合経験後に自信を無くす者が24%から40%に増えている。走行しやすい道路については、ライダーは男女共に単路単車線道路（男性40%、女性60%）次いで単路多車線道路、ドライバーは男女共に単路多車線道路（男性45%、女性42%）次いで単路単車線道路となり、同じ単路部でも車線数で二者に相違がある（図-5）。逆に走行しづらい道路は、各者男女共に一番に挙げたのは市街地多車線道路（ライダー男性約40%、女性約50%、ドライバー男性約25%、女性約30%）である。走行中の注意点については、前方車が約60%を占めるが目前路面では、ドライバー4%に対しライダー11%となる。二輪車事故の起こる理由としては各者共、最も多いのはライダーの運転未熟さ、自信過剰（約55%）と答えた。次にライダーに二輪車の安全性を質問したところ、約33%がはっきりしなかったが危険と答えた者が全体の約45%を占めた（図-6）。危険と思いつつ乗る理由は、四輪より経済的26%、利便性の高さ20%で過半数を占める。又、ドライバーには二輪走行車について質問した結果、危険に感じる者が約90%と多く（図-7）、車の横をすりぬけて走行、車の間をぬって走行する二輪車にそれを感じる者が約75%である。そして、二輪車と四輪車の道路上での分離規制の必要性は約62%の者が必要とした。



4. おわりに

他のアンケートを含む結果からも運転者意識と道路構造に問題があると考えられるので今後、道路構造に視点を向け追求し、安全対策をはかる必要がある。

【参考文献】「道路上におけるライダーの意識調査について」 土木学会中部支部 昭和62年度研究発表会講演要録 P332~333